

少子社会における個人および社会の養育力に関する母子保健学的研究

(第二報) 次世代育成に関するアンケート調査報告

主任研究者 宮原 忍

共同研究者 齋藤幸子・千賀悠子 (母子保健研究部)

竹井 操 (東京都幼・小・中・高・身障性教育研究会)

内山絢子 (科学警察研究所)

星山佳治 (昭和大学医学部)

要約

少子化を狭義の生殖の問題と考えるだけでは根本的解決に至らないと考え、世代継承の視点から個人および社会の「養育性」に注目することとした。本年度は「養育性」の測定手段として調査票を試作し、小集団においてその有用性を検討した。対象は20～50歳男女で、大学・専門学校・企業においてアンケート調査を行った。調査時期は2002年2月で、有効回答は310人であった。

調査内容は、属性、異世代の人々との交流、結婚、性生活、希望子ども数、成育環境、EPSI (エリクソン心理社会的段階目録検査 Erikson psychosocial stage inventory)、回避型人格傾向、共感経験の有無、世代継承観であった。EPSI 得点の高低2群間の比較を行った結果、EPSI 高得点群は、希望する子ども数、世代継承観において、低得点群の値を上回る結果を得られた。ゆえに、本研究における EPSI の有用性は検証できたと思われる。

見出し語 : 少子化、養育性、生殖性、EPSI、希望子ども数、世代継承

Studies on the personal and social generativity in the low fertility society

Part 2 : A survey on the attitude toward parenting next generation

Shinobu Miyahara, Sachiko Saito, Yuko Chiga, Misao Takei,
Ayako Uchiyama, Yoshiharu Hoshiyama

Decreased fertility of Japanese society was considered as the problem of the generation succession, and E.H. Erikson's concept of "generativity" was found to be useful to study the problem from this point of view. A list of questionnaire was invented to survey the generativity of the young and middle aged generation. In February 2002, the men and the women of 20~50 years of age were surveyed and the 310 effective answer sheets were collected.

The questionnaire was included following terms: demographic attributes, acquaintances with different generations, marital state, sexual life, wanted number of children, background, EPSI(Erikson psychosocial stage inventory), personality of averting tendency, sympathetic experience, opinion on the generation succession. Comparison between EPSI high-scored group and low-scored group revealed that the high EPSI group had high wanted number of children, positive opinion on generation succession, etc. Thus, EPSI was thought to be useful for measuring "generativity".

Key Words : decreased fertility, generativity, EPSI, wanted number of children, generation succession

I はじめに

われわれは、我が国の少子化に関する研究を続けてきたが、この問題の文献的研究¹⁾において、少子化を狭義の生殖の問題と考えるだけでは根本的解決に至らないと考え、世代継承の視点から、個人および社会の「養育性」に注目することとした。

個人の養育性の現状を知ることは、少子をもたらす要因究明を進める上での一步ともなり、ひいては、少子社会における思春期からの保健指導・育児相談などの現場における対象理解に役立つ資料を得ることが期待できる。本年度は「養育性」の測定手段として調査票を試作し、小集団においてその有用性を検討した。

II. 研究方法及び対象

1. 調査票について

調査票は研究者で討議を重ね、フェイスシート、希望子ども数、育った家庭環境、EPSI (項目 a. 参照)、回避傾向 (項目 b. 参照)、共感体験 (項目 c. 参照)、世代継承観を軸とした構成となった。

a. EPSI (Erikson psychological stage inventory)

われわれは生殖の上位概念として、E.H. エリクソンが彼の漸成図式の成人期の課題として取り上げた“generativity”に注目した。一般に“generativity”は「生殖性」と訳されるが、これは“reproduction”、あるいは“procreation”と区別してエリクソンが用いた造語であり、「子孫を生み出すこと (procreation)」、「生産性 (reproduction)」、「創造性 (creativity)」を包含する概念²⁾であり、またそこから生み出される「徳」として「世話 (care)」が重視されている。以下の叙述では、「生殖性」という言葉を、引用文献との整合性のため、不本意ながら用いることにする。

エリクソンの図式においては、「自我同一性 (ego identity)」が有名であり、これを用いた研究は数多いが、generativity に注目した研究は多くない。中西と佐方 (1983) は Rosenthal ら (1981) が開発した EPSI (Erikson psychological stage inventory) を 2 回にわたって改訂、標準化して発表した。今回は、これを調査票の一部に取り込み、「養育性」の指標として用いるかを検討した³⁾。

EPSI はエリクソンの発達課題 (信頼性、自律

性、自主性、勤勉性、同一性、親密性、生殖性、統合性) のそれぞれに 7 項目、合計 56 項目の目録検査である。

b. 回避傾向

阿部は、セックスレス・カップルに対して DSN-III-R の回避型人格障害の診断を行い⁴⁾、親密になることへの不安、成功不安が性的回避に働く無意識的な深層因と考えた^{5) 6)}。回避傾向と養育性の関連を検討するため、回避型人格障害の診断基準を参考にした 5 項目を調査票に取り入れた。

c. 共感体験

前述の generativity から生み出される「徳」として「世話 (care)」に関連して、世話することによって必要と考えられる共感性を示す項目として、共感体験を 5 項目を設定した^{7) 8)}。

2. 対象と方法

20~50 歳男女を対象に、大学・専門学校・企業においてアンケート調査を行った。調査時期は 2002 年 2 月であった。配付数 388 票に対し、回収 356、有効回答は 310 (男性 139、女性 171)、有効回答率 80%であった。EPSI 得点の高低群別および生殖性高低群別に検討した。調査内容は以下のとおりである。

- 1) 属性 (性別、年齢、最終学歴、同居人、職業)
- 2) 異世代の人々との交流
- 3) 結婚、性生活、希望子ども数
- 4) 成育環境 (世話を受けた人、人生について教えてくれた人、育ったご家庭、両親像、親の子への関わり方)
- 5) EPSI (エリクソン心理社会的段階目録検査 Erikson psychosocial stage inventory) より、信頼性、自律性、自主性、勤勉性、同一性、親密性、生殖性、統合性 (各 7 項目)
- 6) 回避型人格傾向
- 7) 共感経験の有無
- 8) 世代継承観 (次世代・親世代について)

III. 結果と考察

1. 年齢・性別にみた EPSI 得点

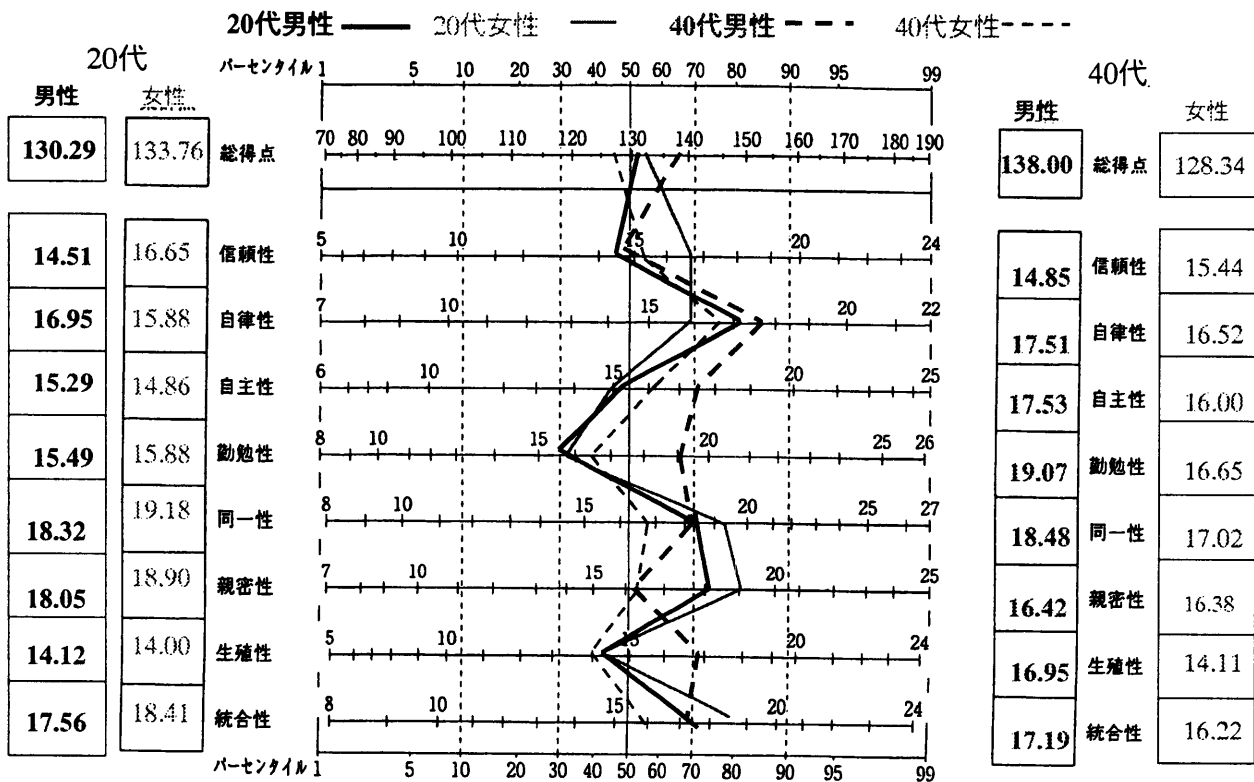
EPSI 56 項目すべてに回答のあった 310 人のうち、25 歳以下 (20 代と称する) 92 人と 45 歳~50 歳 (40 代と称する) 163 人の計 255 人について男

女別の4群間で、EPSI 得点合計の平均値を比較した。各群の対象数は20代(男性41人、女性51人)、40代(男性81人、女性82人)である。

EPSI 得点は5件法(0~4点)で計算し、56項目中32項目は逆転項目である(表19参照)。対象のEPSI 合計得点の平均値は、40代男性138.0、20代男性130.3、40代女性128.5、20代女性133.8となっており、40代男性の得点が高い。生殖

性についても、40代男性16.95、20代男性14.12、40代女性14.11、20代女性14.00で、40代男性の得点が高い。40代男性は図1のごとく、他の3群とは異なったプロフィールを示した。40代男性は「自主性」「勤勉性」「生殖性」で他の群と比べ、有意に得点が高かった。プロフィール用紙は文献³⁾に掲載されたものを使用した。

図1. EPSI平均値プロフィール 男女・世代別



2. EPSI 合計得点高・低群別集計

EPSI 56 項目すべてに回答のあった 310 人のうち、EPSI 合計得点の高低約 30 パーセントの 2 群間の比較を行った。高得点群は 102 人、低得点群 101 人である。以下の分析では、(p<0.05) と記していない限り、差がありとした項目は危険率 1% 以下で有意な差があることを示す。

(1) 属性

対象の性比は、高得点群が男性 54 人 (52.9%)・女性 48 人 (47.1%)、低得点群は男性 38 人 (37.6%)・女性 63 人 (62.4%) である。低得点群は女性の割合が多かった (p<0.05)。年齢の平均値は高得点群 36.30 歳、低い群 37.07 歳で差はなかった (表 1,2)。

学歴では差がなかった (表 3)。家族構成 (同居人) では差がなかったが、現在の子どもの数の平均値は高得点群 2.16 人・低得点群 1.69 人で、高得点群の子どもの数が低得点群に比べて多かった (表 4)。

(2) 異世代との交流

a. 交流の有無

自分より「上の世代との交流」が「ほとんどない」は高得点群 19.6%・低得点群 32.7%であり、「下の世代との交流」が「ほとんどない」は高得点群 33.3%・低得点群 47.5%となっていた。低得点群は高得点群に比べ、上下の世代との交流がないものが多い ($p<0.05$)。

「同世代との交流」が「多い」は高得点群 89.2%・低得点群 79.2%と、高得点群の割合が高いが、有為な差はなかった (表 6)。

b. 世話を受けたと感じる人

誰の世話を受けて育ったと感じているかについて、父母・祖父母・きょうだい・親戚・教師・他、計 12 項目設問した。「きょうだい」と「友人」において高得点群が危険率 0.1 以下で低得点群を上回ったが、その他では顕著な差は認められなかった (表 9)。世話を受けたと感じる人の合計人数の平均値においても、高得点群が 4.65 人・低得点群が 4.26 人で差は認められなかった。

c. 人生について重要なことを教えてくれた人

該当する人が何人いるかを設問した。高得点群の平均 5.52 人、低得点群の平均 4.39 人と高得点群が多くなっているが、有意な差ではない。

以上、EPSI 高得点群の方が低得点群に比べて異世代交流は多かったが、世話を受れたり、人生観を伝えられたと感じる対象の人数では差がなかった。

(3) 欲しい子どもの数

高得点群の希望する子ども数の平均が 2.46 人、低得点群の平均が 2.05 人と高得点群の方が、多くの子どものを望んでいた ($p<0.05$)。

(4) 育った家庭の環境について

a. 育った家庭の雰囲気

家庭が「自由に話し合い、会話が豊かだった」は高得点群 55.9%・低得点群 40.6%、「ユーモアと安らぎがあった」は高得点群 57.8%・低得点群 42.6%と、高得点群の育った家庭の方が、自由かつユーモアと安らぎのある穏やかな雰囲気であった (表 11)。

b. 両親の夫婦像

回答者が育った頃の両親について 5 項目設問した。そのうち「価値観が共通していた」高得点群 42.2%・低得点群 24.8%、「仲がよかった」高得点群 57.8%・低得点群 42.6% ($p<0.05$) の 2 項目で差が認められ、高得点群の両親の方が、価値観が共通していて、仲のよい夫婦が多かった (表 12)。

c. 両親の回答者 (10 代の頃) への関わり方

回答者が中学生から 20 歳までの頃の父については、「なにを、どのようにすべきか指示していた」が高得点群 36.3%・低得点群 18.8%と、高得点群の父の方が指示的であった (表 13)。

母については「考えや感じていることに耳を傾けてくれた」と感じている高得点群が 71.6%・低得点群 45.5%、「行動に口を挟まないが気づかってくれた」高得点群が 55.9%・低得点群 33.7%と高得点群の方が傾聴的で気づかいのある母親が多かった (表 14)。

(5) 回避傾向

5 項目 (1.私は悪くないのに、周りから非難されたり、邪魔されたりすることがある；2.私は、人に批判されると傷付きやすい；3.私は相手に好かれている確信がないと、その人に近づかない；4.恥をかくことがいやで、人前で積極的行動が出来ない；5.いつもと違ったことはやらない) のマルチ・アンサーで設問した。5 項目すべてで差がみられた (2 項目は $p<0.05$)。低得点群は「非難されると傷付き易く、恥をかくことを嫌い、相手に好かれている確信がないと近づかない」等の回避的人格傾向が顕著に認められた (表 15)。

5 項目のうちあてはまる項目数のサンプルごとの合計を出して [回避傾向得点] とし、全体の平均値を求めると高得点群 0.97、低得点群 2.05 と低得点群の値が高かった。低得点群の方が回避傾向が強いと言える。

(6) 共感体験

5 項目 (1.うれしそうにしている人を見ると、自分もうれしくなることがある；2.誰かがいじめられているのを見ると、はらが立つ；3.悲しんでいる人を見て、もらい泣きしたことがある；4.物事に感動して、涙が出そうになったことがある；5.つらい思いをしている人のつらさを感じとってことがある) のマルチ・アンサーで設問した。いずれも高得点群と低得点群の間で、差は認められなかった (表 16)。

5 項目のうちあてはまる項目数のサンプルごとの合計を出して [共感性得点] とし、全体の平均値を求めると高得点群 3.59・低得点群 3.42 で有為差はなかった。

(7) 世代継承観

次世代と親世代に関して、各 7 項目のマルチ・アンサーで設問した。

a. 次世代へ

高得点群の回答の割合が高い項目は、「次世代へ残したいものがある」高得点群 54.9%・低得点群 21.8%、「子を産み育てることは大切」高得点群 82.4%・低得点群 67.3% ($p < 0.05$)、「自分の子どもに限らず次世代のために配慮したり、世話をすることは大切」高得点群 65.7%・低得点群 44.6%である。

一方、低得点群は、「自分のことで精一杯で次の世代を配慮する余裕がない」としている割合が 20.8%と高得点群 6.9%に比べ高かった(表 17)。

b. 親世代から

高得点群は「親世代から伝えられる物的財産を大切にしたい」が 64.7%と低得点群 47.5%より高かった ($p < 0.05$)。一方、低得点群は「親世代は自分達のことと精一杯で、我々世代への配慮が足りなかった」が 19.8%と、高得点群 6.9%に比べ高かった(表 18)。

高得点群の方が有形無形の財産を世代間で引き継ぐことを大切に考え、次世代を育成することを大切にしている。低得点群はゆとりが少ない傾向がみられる。

両群とも親世代から伝えられることは大切にしたいと考えている割合(親や上の世代から伝えられる「知的財産」や「生活の知恵」を大切にしたい、高得点群 80.4%・低得点群 71.9%)に比べ、次世代へ残したいものがあるとした割合(高得点群 54.9%・低得点群 21.8%)は低い。

「次世代について」の設問 7 項目中 4 項目を 1 点、3 項目は逆転項目なので -1 点としてサンプルごとに合計した値を[次世代への継承性得点]とし全体の平均値を算出すると、高得点群 2.35・低得点群 1.43 ($p < 0.05$)であった。同じく「親世代について」の設問から[親世代からの継承性得点]を算出すると、高得点群 1.95・低得点群 1.36 と差が認められた。

以上から、高得点群は低得点群に比べて世代継承性が高く、全体で見ると、親から受け継ぐことに比べ、次世代に伝えようとする力は相対的に低いといえる。

(8) EPSI 得点平均値

設問 56 項目の各平均値すべてにおいて高得点群が低得点群に比べ、高いことが認められた。また、発達課題ごと 7 項目ずつの 8 設問群(信頼性、自律性、自主性、勤勉性、同一性、親密性、生殖性、統合性)それぞれ合計得点においてもすべてで高得点群が高いことが認められた(表 20)。以上から、EPSI

は本研究において、人格の成熟度をみるために有用であるといえる。

3. 生殖性 (generativity) 得点高・低群別集計

EPSI のうち生殖性を示す 7 項目の合計得点の高低約 30 パーセントイルの 2 群間の比較を行った。EPSI (56 項目) 得点高低群の比較とほぼ同じ傾向が認められたが、生殖性高低でのみ認められた差は性生活ついてであった。生殖性高得点群で、性生活が「普通にある」割合が高かった(表 21)。

IV. おわりに

EPSI 得点の高低 2 群間の比較を行った結果、EPSI 高得点群は、希望する子ども数、世代継承観などにおいて、低得点群の値を上回り、相対的に養育性が高いといえよう。ゆえに、本研究における EPSI の有用性は検証できたと思われる。今回の調査対象にはサンプリングに偏りがあったことは否めないが、今後は、調査項目にさらに検討を加え、調査対象を広げて実施し、わが国の個人および社会の養育性の現状を明らかにしたい。

文 献

- 1) 宮原忍他：少子社会における個人および社会の養育力に関する母子保健学的研究(第一報)文献研究, 日本子ども家庭総合研究所紀要, 第 37 集: 87-115, 1999.
- 2) E.H.エリクソン, 村瀬孝雄他訳: ライフサイクル, その完結: 88, 1989, みすず書房
- 3) 中西信男・佐方哲彦: EPSI-エリクソン心理社会的段階目録検査-, 心理アセスメントハンドブック, 第 2 版: 365-376, 2001.6, 西村書店
- 4) 高橋三郎訳: DSM-III-R 精神障害の診断・統計マニュアル, 1988, 医学書院
- 5) 阿部輝夫: セックスレス・カウンセリング, 産婦人科の世界, Vol.51, No2, : (205)87-(209)91, 1999
- 6) 阿部輝夫: セックスレス・カップルと回避型人格障害, 精神療法, 第 18 巻 (第 5 号): 21-29, 1992.9
- 7) 角田豊: 共感経験尺度改訂版 (EESR) の作成と共感性の類型化の試み, 教育心理学研究, No.42: 193-200, 1994
- 8) 井上健治, 西澤朋子, 尾辻俊昭: 物語テストと質問紙による共感性測定の試み, 東京大学教育学部紀要, 第 31 巻: 109-120, 1991

EPSSI総得点高・低群別集計

*** p<0.01 ** p<0.05 * p<0.1

	高群(n=102)		低群(n=101)		検定
	実数	%	実数	%	
表1.回答者の性別					
男性	54	52.9	38	37.6	**
女性	48	47.1	63	62.4	**
表2.年齢					
平均・標準偏差(SD)	36.30 (SD 11.67)		37.07 (SD 11.45)		
表3最終学歴(または現学歴)					
1. 中学	6	5.9	4	4.0	
2. 高校	31	30.4	38	37.6	
3. 専門・専修学校	44	43.1	39	38.6	
4. 短大・高専	1	1.0	3	3.0	
5. 大学	16	15.7	15	14.9	
6. 大学院	3	2.9	1	1.0	
7. その他	1	1.0	1	1.0	
表4.現在一緒に暮らしている人					
1. 一人暮らし	28	27.5	21	20.8	
2. 配偶者と(パートナーと)	50	49.0	47	46.5	
3. 子どもと	32	31.4	34	33.7	
4. 親と	22	21.6	28	27.7	
5. 祖父母と	1	1.0	5	5.0	
6. 恋人と	5	4.9	1	1.0	
7. その他	4	3.9	5	5.0	
表4-SQ1.子どもの数					
平均・標準偏差(SD)	2.16 (SD 0.57)		1.69 (SD 0.58)		***
表5.職業					
1. 勤め人(常勤)	39	38.2	25	24.8	**
2. 勤め人(非常勤・パート)	15	14.7	23	22.8	
3. 自営業(農林漁業の自営を含む)	2	2.0	2	2.0	
4. 会社経営	0	0.0	0	0.0	
5. 学生(就学中)	43	42.2	38	37.6	
6. 専業主婦	2	2.0	9	8.9	
7. その他	0	0.0	2	2.0	
表5-SQ1.職種					
1. 事務	4	3.9	8	7.9	
2. 製造	14	13.7	9	8.9	
3. 営業・販売	11	10.8	7	6.9	
4. サービス業	4	3.9	6	5.9	
5. 専門職(看護職・医師・教員など)	4	3.9	1	1.0	
6. 技術・研究職	9	8.8	3	3.0	
7. その他	5	4.9	7	6.9	

	高群(n=102)		低群(n=101)		検定
	実数	%	実数	%	
表6.世代交流					
表6-1.自分より20歳以上、上の世代と					
1.交流が多い	30	29.4	22	21.8	
2.交流が少ない	40	39.2	38	37.6	
3.ほとんどない	20	19.6	33	32.7	**
表6-2.自分より20歳以上、下の世代と					
1.交流が多い	19	18.6	16	15.8	
2.交流が少ない	34	33.3	31	30.7	
3.ほとんどない	34	33.3	48	47.5	**
表6-3.自分と同じまたは、近い世代と					
1.交流が多い	91	89.2	80	79.2	*
2.交流が少ない	7	6.9	15	14.9	*
3.ほとんどない	1	1.0	1	1.0	
表7.結婚					
1.結婚している(配偶者またはパートナーがいる)	48	47.1	55	54.5	
2.結婚していたが、離別した	2	2.0	1	1.0	
3.結婚していたが、死別した	1	1.0	1	1.0	
4.未婚	51	50.0	43	42.6	
表7-SQ1.結婚の意思(未婚者限定)					
1.結婚する、または結婚したい(時間は問いません)	46	45.1	33	32.7	*
2.結婚はしたくないが、パートナーとなる異性が欲しい	3	2.9	5	5.0	
3.一生、夫または妻・パートナーはいらない	0	0.0	1	1.0	
4.その他	2	2.0	4	4.0	
表7-SQ2.性生活(既婚者またはパートナーあり限定)					
1.普通にある	25	24.5	25	24.8	
2.あまりない	16	15.7	18	17.8	
3.ない	7	6.9	12	11.9	
表8.欲しい子どもの数					
平均・標準偏差(SD)	2.46 (SD 1.13)		2.05 (SD 1.37)		**
表9.世話を受けて成長してきたと感じる人					
1.父	90	88.2	85	84.2	
2.母	95	93.1	97	96.0	
3.祖父	26	25.5	22	21.8	
4.祖母	34	33.3	28	27.7	
5.きょうだい	46	45.1	34	33.7	*
6.親戚の人	22	21.6	21	20.8	
7.学校の先生	37	36.3	28	27.7	
8.保母やベビーシッター	3	2.9	3	3.0	
9.友人	52	51.0	39	38.6	*
10.同僚	12	11.8	19	18.8	
11.先輩	29	28.4	24	23.8	
12.上司	20	19.6	22	21.8	
13.その他	7	6.9	7	6.9	
14.その他	1	1.0	1	1.0	
15.その他	0	0.0	0	0.0	
表10.人生を教えてくれた人					
平均・標準偏差(SD)	5.52 (SD 7.64)		4.39 (SD 10.49)		

	高群(n=102)		低群(n=101)		検定
	実数	%	実数	%	
表11.育った家庭の雰囲気					
表11-1.考えなど自由に話し合い、会話が豊かだった					
1.はい	57	55.9	41	40.6	**
2.いいえ	9	8.8	21	20.8	**
3.どちらともいえない	26	25.5	37	36.6	*
表11-2.様々な人達と付き合いがあり、開放的であった					
1.はい	57	55.9	45	44.6	
2.いいえ	10	9.8	21	20.8	**
3.どちらともいえない	26	25.5	33	32.7	
表11-3.批判的なことを言い合い、家族仲がよくなかった					
1.はい	13	12.7	15	14.9	
2.いいえ	64	62.7	52	51.5	
3.どちらともいえない	13	12.7	32	31.7	***
表11-4.ユーモアがあり、安らぎがあった					
1.はい	59	57.8	43	42.6	**
2.いいえ	5	4.9	18	17.8	***
3.どちらともいえない	28	27.5	37	36.6	
表11-5.厳格で息苦しい雰囲気であった					
1.はい	4	3.9	11	10.9	*
2.いいえ	62	60.8	59	58.4	
3.どちらともいえない	23	22.5	28	27.7	
表12.父母の夫婦像					
表12-1.困ったときに、たすけあい協力していた					
1.はい	66	64.7	57	56.4	
2.いいえ	7	6.9	13	12.9	
3.どちらともいえない	21	20.6	23	22.8	
表12-2.考えや価値観が共通していた					
1.はい	43	42.2	25	24.8	***
2.いいえ	13	12.7	24	23.8	**
3.どちらともいえない	33	32.4	43	42.6	
表12-3.お互いの考えや個性を尊重していた					
1.はい	46	45.1	34	33.7	
2.いいえ	10	9.8	18	17.8	
3.どちらともいえない	34	33.3	41	40.6	
表12-4.父が主導権をもっていた					
1.はい	43	42.2	42	41.6	
2.いいえ	21	20.6	20	19.8	
3.どちらともいえない	24	23.5	31	30.7	
表12-5.仲のよい夫婦だった					
1.はい	59	57.8	43	42.6	**
2.いいえ	6	5.9	19	18.8	***
3.どちらともいえない	27	26.5	30	29.7	

	高群(n=102)		低群(n=101)		検定
	実数	%	実数	%	
表13.父について					
1.父は私に、なにを・どのようにすべきか、指示していた	37	36.3	19	18.8	***
2.父は、私の考えや感じていることに耳を傾けてくれた	39	38.2	26	25.7	*
3.父は、私の行動に口をはさまないが、気づかってくれていた	47	46.1	42	41.6	
4.私は父に「男らしく」または「女らしく」するように言われた	21	20.6	22	21.8	
5.私は父に、尊重されて育った	22	21.6	20	19.8	
表14.母について					
1.母は私に、なにを・どのようにすべきか、指示していた	27	26.5	31	30.7	
2.母は、私の考えや感じていることに耳を傾けてくれた	73	71.6	46	45.5	***
3.母は、私の行動に口をはさまないが、気づかってくれていた	57	55.9	34	33.7	***
4.私は母に「男らしく」または「女らしく」するように言われた	21	20.6	19	18.8	
5.私は母に、尊重されて育った	38	37.3	33	32.7	
表15.回避傾向					
1.私は悪くないのに、周りから非難されたり、邪魔されたりすることがある	15	14.7	27	26.7	**
2.私は、人に批判されると傷付きやすい	35	34.3	64	63.4	***
3.私は相手に好かれている確信がないと、その人に近づかない	14	13.7	38	37.6	***
4.恥じをかくことがいやで、人前で積極的行動が出来ない	18	17.6	46	45.5	***
5.いつもと違ったことはやらない	17	16.7	32	31.7	**
表16.共感体験					
1.うれしそうにしている人を見ると、自分もうれしくなることがある	80	78.4	71	70.3	
2.誰かがいじめられているのを見ると、はらが立つ	70	68.6	63	62.4	
3.悲しんでいる人を見て、もらい泣きしたことがある	62	60.8	63	62.4	
4.物事に感動して、涙が出たことがある	85	83.3	87	86.1	
5.つらい思いをしている人の話を聞き、そのつらさを感じ取ったことがある	69	67.6	61	60.4	

	高群(n=102)		低群(n=101)		検定
	実数	%	実数	%	
表17.世代継承観(次世代へ)					
1.私は、次の世代に残したいものがある(有形無形含め)	56	54.9	22	21.8	***
2.私にとって、自分の子どもを生み育てることは、大切なことだ	84	82.4	68	67.3	**
3.私にとって、自分の子どもに限らず次世代のために配慮したり世話をすることは、大切なことだ	67	65.7	45	44.6	***
4.子どもは次の時代の担い手だから、社会全体がもっと養育に責任を持つべきだ	60	58.8	61	60.4	
5.私は、自分達のことと精一杯で、次の世代のことを配慮する余裕がない	7	6.9	21	20.8	***
6.私は、自分より下の世代や子ども世代の考え方が理解できない	10	9.8	15	14.9	
7.現代は、次世代の育成より、高齢者問題が優先されるべきである	10	9.8	16	15.8	

表18.世代継承観(親世代から)					
8.私は、親や上の世代から伝えられる(物的)財産を大切にしたい	66	64.7	48	47.5	**
9.私は、親や上の世代から伝えられる「知的財産」や「生活の知恵」を大切にしたい	82	80.4	72	71.3	
10.私の親世代の方が、今の親より子どもを可愛がったと思う	34	33.3	22	21.8	*
11.私の親世代が若い時の方が、今より子育てしやすい環境だったと思う	50	49.0	42	41.6	
12.私の親世代は自分達のことと精一杯で、我々世代への配慮が足りなかったと思う	7	6.9	20	19.8	***
13.私は、親や上の世代の考え方が理解できない	3	2.9	6	5.9	
14.新しい時代には、親世代の価値観は通用しないので、子どもは自分の価値観を作って行けばよい	23	22.5	21	20.8	

	高群(n=102)		低群(n=101)		検定
	平均	標準偏差	平均	標準偏差	
表15～18.得点化					
回避傾向	0.97	0.94	2.05	1.55	***
共感体験	3.59	1.47	3.42	1.54	
次世代への継承性	2.35	1.37	1.43	1.41	***
親世代からの継承性	1.95	1.30	1.36	1.26	***

	高群(n=102)		低群(n=101)		検定
	平均	標準偏差	平均	標準偏差	
表19.EPSI (*逆転項目)					
信頼性					
1.*私に、もっと自分をコントロールする力があればよいと思う	1.94	1.23	1.17	0.88	***
2.*良いことは決して長続きしないと、私は思う	2.54	1.20	1.52	0.97	***
3. 私は、世間の人たちを信頼している	2.54	0.91	1.92	0.90	***
4. 周りの人々は、私のことをよく理解してくれている	2.63	0.86	2.10	0.72	***
5.*私には、何事も最悪の事態になるような気がしてくる	3.36	0.75	2.21	0.86	***
6. 世の中は、いつも自分にとってよい方向に向かっている	2.09	1.08	1.64	0.74	***
7.*周りの人たちは、私を理解してくれない	2.93	0.92	2.11	0.64	***
自律性					
8.*私は、何事にも優柔不断である	2.68	0.98	1.42	0.88	***
9.*私は、決断する力が弱い	2.66	1.00	1.31	0.88	***
10.*私は、自分という存在を恥ずかしく思っている	3.60	0.65	2.17	1.01	***
11. 私は、自分で選んだり決めたりするのが好きである	3.09	0.96	2.23	0.74	***
12.*私は、自分の判断に自信がない	2.91	0.86	1.52	0.85	***
13.*私は、この世の中でうまくやっけていこうなどは決して思わない	2.97	0.93	2.29	0.98	***
14. 私は、物事をありのままに受け入れることができる	2.72	0.82	2.08	0.73	***
自主性					
15.*私には、みんなが持っている能力が欠けているようである	2.85	0.83	1.67	0.87	***
16.*私は、誰か他の人がアイデアをだしてくれることをあてにしている	2.84	0.99	1.63	0.83	***
17. 私は、多くのことをこなせる精力的な人間である	2.46	0.88	1.55	0.74	***
18.*たとえ本当のことであっても、私は否定してしまうかもしれない	2.66	0.94	1.90	0.71	***
19.*私は、リーダーというよりも、むしろ後に従っていくほうの人間である	2.08	1.25	1.16	0.74	***
20.*私は、いろんなことに対して罪悪感を持っている	3.32	0.73	1.95	0.87	***
21. 私は、してはいけないことに対して、自分でコントロールできる	3.14	0.89	2.43	0.75	***
勤勉性					
22. 私は、いっしょうけんめいに仕事や勉強をする	3.18	0.81	2.23	0.77	***
23. 私は、自分が役に立つ人間であると思う	2.80	0.79	1.93	0.66	***
24. 私は、目的を達成しようがんばっている	3.25	0.70	2.29	0.81	***
25. 私は、自分の仕事をうまくこなすことができる	3.04	0.64	2.02	0.72	***
26.*私は、物事を完成させるのが苦手である	2.99	0.87	1.74	0.77	***
27.*私は、のらりくらりしながら多くの時間をむだにしている	2.73	1.04	1.42	0.89	***
28.*私は、頭を使ったり、技術のいる事柄はあまり得意ではない	2.72	1.10	1.60	0.76	***

	高群(n=102)		低群(n=101)		検定
	平均	標準偏差	平均	標準偏差	
同一性					
29. 私は、自分が何になりたいのかをはっきりと考えている	2.95	1.02	2.09	1.01	***
30.*私は、自分が混乱しているように感じている	3.23	0.96	1.87	0.93	***
31. 私は、自分がどんな人間であるのかをよく知っている	3.06	0.70	2.48	0.80	***
32.*私は、自分の人生をどのように生きたいかを自分で決められない	3.34	0.79	2.03	0.80	***
33.*私は、自分のしていることを本当はわかっていない	3.37	0.78	2.08	0.85	***
34. 私は、自分が好きだし、自分に誇りをもっている	3.16	0.83	1.88	0.79	***
35.*私には、充実感がない	3.28	0.80	1.84	0.81	***
親密性					
36.*誰かに個人的な話をされると、私は当惑してしまう	2.95	0.94	2.07	0.96	***
37. 私は、特定の人と深いつきあいができる	3.04	1.00	2.51	1.03	***
38. 私は、あたたかく親切な人間である	2.77	0.67	2.10	0.84	***
39.*私は、もともと1人ぼっちである	3.30	0.83	2.07	1.07	***
40. 私は、他の人たちと親密な関係を持っている	2.87	1.02	1.98	0.91	***
41.*私は、他の人よりも目立つのを好まない	2.33	1.12	1.51	0.89	***
42.*私は、他の人たちとなかなか親しくなれない	3.02	0.90	1.91	0.89	***
生殖性					
43. 私は、後輩や部下のめんどろをよく見る	2.73	0.91	2.01	0.86	***
44. 私は、将来に残すことのできる業績をあげつつある	1.82	1.00	1.35	0.92	***
45. 私は、よい親である(親になる)自信がある	2.79	0.88	1.80	0.93	***
46.*私は、後輩や部下を指導するのが苦手である	2.59	1.08	1.71	0.96	***
47.*私は、自分を甘やかすところがある	1.60	1.05	1.24	0.87	***
48.*私は、親であること(親になること)が不安である	2.89	1.05	1.73	0.98	***
49. 私は、未来を担う子どもたちを育てていきたいと思う	3.17	0.92	2.20	0.94	***
統合性					
50.*私は、自分が死ぬことを考えると不安である	2.51	1.23	2.06	1.16	***
51. 私のこれまでの人生は、かけがえのないものだと思う	3.36	0.78	2.23	1.03	***
52.*私は、生きがいをなくしてしまっている	3.68	0.60	2.32	0.97	***
53. 私は、悔いのない人生を歩んでいる	2.97	0.90	1.79	0.84	***
54. 私は、自分の死というものを受け入れることができる	2.49	1.15	1.93	1.11	***
55.*私には、もっと別の生き方があるのではないかと思う	2.37	1.16	1.68	0.87	***
56.*私の人生は、失敗の連続のように思う	3.46	0.76	1.92	0.77	***

	高群(n=102)		低群(n=101)		検定
	平均	標準偏差	平均	標準偏差	
表20.EPSI得点・発達課題別					
信頼性(7項目合計)	18.03	3.91	12.67	2.83	***
自律性(7項目合計)	20.62	3.38	13.01	2.90	***
自主性(7項目合計)	19.35	3.38	12.3	2.84	***
勤勉性(7項目合計)	20.71	3.70	13.23	2.85	***
同一性(7項目合計)	22.39	3.23	14.27	2.92	***
親密性(7項目合計)	20.29	3.35	14.16	3.32	***
生殖性(7項目合計)	17.59	3.54	12.04	3.21	***
統合性(7項目合計)	20.84	3.53	13.93	2.75	***
総得点(56項目)	159.82	15.28	105.6	14.34	***

生殖性高・低群別集計

	高群(n=107)		低群(n=99)		検定
	実数	%	実数	%	
表21.性生活について					
1. 普通にある	16	15.0	35	35.4	***
2. あまりない	21	19.6	21	21.2	
3. ない	11	10.3	8	8.1	